

新国立次はデザイン

政府による2020年東京五輪・パラリンピックのメイン会場「新国立競技場」整備計画の見直しは、焦点の総工費の上限を旧計画より1100億円圧縮した1550億円とすることで決着した。観客席を4000席減らし6万8000席とするなど、設備を必要最小限の規模に絞り込んだ。11月にデザインや設計、施工を一括して決める国際コンペを実施し、20年4月末までに完成させる。

△関連記事3・23・35面▽

新しい整備計画は28日の関係閣僚会議（議長・遠藤五輪相）で決定。旧計画は競技場の工事費が2520億円、未公表の関連工事費を含めた総工費が2651億円と巨額になり、世論の批判を浴びた。安倍首相は

総工費1550億円上限

「シンプル」競技特化・「和」木材も

9月1日に公募が始まる国際コンペでは、工期短縮のため、デザイン・設計・施工を一括発注。1550億円以内で工期内に建設可能な提案をした事業者から選ばれる。競技機能に特化した今回の計画では、地下駐車場などのコンパクト化が図られ、競技場の延べ床面積も約13%縮小された。それでも東京ドーム約4個分の19.45万平方メートルの広さがある。

開閉式屋根の設置は見送ら

れたが、観客席上部に屋根が付く。さらに8万席が必要なサッカーワールドカップ招致に向けて陸上トラック部分に観客席を設けた場合に備え、トラック上部も屋根で覆うとした。

また、新計画では、「日本らしさ」も重視された。具体的なイメージは明らかにされていないが、屋根などの一部に木材を活用したり、外観や機能に「和」の要素を取り入れたりすることが想定されている。

工費が限られ、よりシンプル

7月17日、旧計画の白紙撤回を表明した。

新計画は、巨大な2本の「キールアーチ」で屋根を支える特徴的な構造を取りやめ、屋根を観客席上部のみとしたことで、屋根部分の工事費を950億円から238億円にまで圧縮。施設は原則、競技専用で、スポーツ博物館など関連施設を取りやめ、豪華なVIP席やラウンジなどの施設も縮小した。旧計画同様、陸

2015年8月28日	新たな整備計画の決定
9月1日	公募手続きを開始
11月	公募締め切り。国際コンペ実施
12月末	設計・施工を行う事業者を選定
16年1月めど	設計委託契約を締結
12月末めど	工事請負契約を締結。施工
20年1月末	国際オリンピック委員会(IOC)が求める完成期限
4月末	政府が想定する完成期限
7月24日	東京五輪開幕

●新国立競技場に関する主な日程

エンブレム原案公開 組織委

2020年東京五輪の大会エンブレムがベルギーのデザイナーの佐野研二郎

ノーベル賞受賞



読売新聞社は10月4日、「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム 次世代へのメッセージ」を福岡市で開催します。1999年に平和賞を受賞した「国境なき医師団」のオペレ

上のサブトラックは仮設にとどめた。

政府内で検討された観客席の冷暖房設備は、約100億円と高額なため、総工費圧縮を重視する首相の指示で見送られた。

客席数は、国際オリンピック委員会(IOC)が求める「6万人規模」の条件は満たすが、日本が招致を目指すサッカーワールドカップ(W杯)の「常設8万席以上」には届かない。このため、大会後、陸上トラック部分に1万2000席の増設が可能としている。